

健康起因事故リスク回避へ 高齢ドライバー対策を学ぶ

OCHIS 第12回「両輪会」

【大阪】ヘルスケア ネットワーク(OCHIS)は2月27日、「待ったなし! 高齢ドライバー対策」運輸業界の高齢化への対応と働き方をテーマに第12回安全と健康を推進する協議会「両輪会」を開催。高齢化による健康起因事故の



5グループに分かれディスカッション

リスク回避や社内での健康管理体制の取り組み方、今後の方向性などについて活発に意見が交わされた。

副理事長の作本貞子氏は、「今後、5年や10年先の企業の在り方

をどうすればいいのかが、皆様と取り組みや課題をどうぼらんにお話して、一つのモデル、両輪会の求めるべき方向へ進めれば」とあいさつ。また、高齢化における身体の問題として「視力の低下、脳卒中、心筋梗塞、判断力の低下」などに対する対応に加え、働き方の問題点として60歳以降の労働形態の調整や再雇用・年金金額との調整などを挙げ、「どう総合的に対応していくべきかが求められる。高齢化は確実に降りかかってくるので早く対策を講じていた

「引き続き、保健師の黒田悦子氏が、「ドライバーの高齢化に伴う諸問題・高齢者の変化と健康リスクについて」と題して解説。「93年以前は60歳以上のドライバーは統計上のドライバーは統計上いかなかった」とし、「06年から60歳以上が増加傾向にある。93年から06年の13年間で20歳代のドライバーが減少し、40歳代のドライバーは増加している」と説明。高齢化に伴う健康リスクの回避体制の必要性を説いた。

事例紹介として、梅田運輸倉庫常務取締役の岩崎小夜子氏が「高齢者との関わりと活用について」を、大阪セーラー運輸顧問の峯森吉和氏が「高齢者への健康管理・教育方法」について、それぞれ発表。講演後は5グループに分かれディスカッションが行われ、ドライバーの高齢化に対する課題や自社の取り組み・対策などの情報を交換した。(山田克明)